

TECHNICAL DATA

仕上げの種類	水和凝固型塗膜防水（脱気絶縁工法）
製品名	ネオドライ工法（XD-5工法）

第2版 作成日： 2019年 10月 3日



菊水化学工業株式会社

標準施工仕様書

1. 工法名

ネオドライ工法 (XD-5工法: 脱気絶縁工法)

2. 適用工事

屋上等の露出防水工事 (非歩行用, 特に下地コンクリートに水がまわっている改修工事に最適)

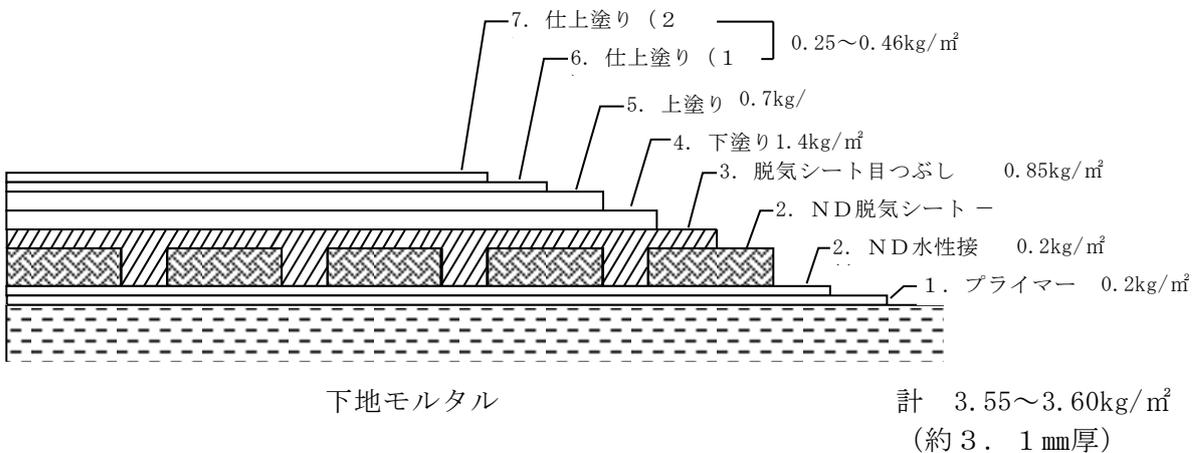
3. 材料荷姿及び適用

材	料	荷	姿	適	用
NDプライマー E		16kg	缶入	プライマー	
ND水性接着材		17kg	缶入	ND脱気シート用接着材	
ND脱気シート		1m幅	50m巻き	通気緩衝シート	
NDジョイントテープ		5cm幅	100m巻き	ND脱気シートのジョイント処理	
ND脱気筒		-		脱気装置	
NDコート	主 材	9kg	袋入り	防水層用材料	
	混 和 液	8kg	缶入		
NDメッシュ100, 50, 20, 10		105, 50, 20, 10cm幅	115m乱巻き	補強布	
ND添加剤		200g	容器入	たれ止め剤 (立ち上がり部等に適用)	
NDトップ#2000		15kg	缶入	非歩行用保護層	

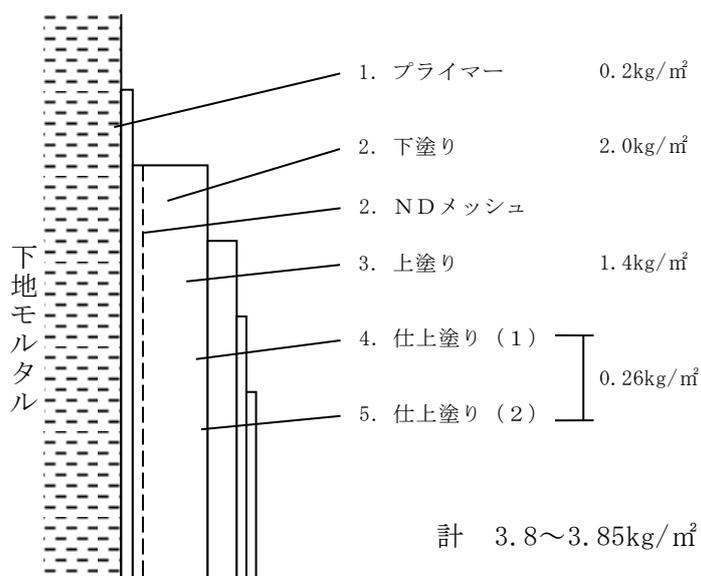
注) ウレタン防水・シート防水・アスファルト防水・金属・塩ビ等の上に施工する場合は
プライマーとしてNDプライマー S (15kg/缶入)を使用する。

4. 断面構成図

4. 1 平床部 (XD-5工法)



4. 2 立ち上がり部



5. 施 工

5. 1 下地調整

- (1) 下地の汚れ等は高圧水洗・ほうき等で除去し、良く(2日以上)乾燥させる。
- (2) 鉄筋、鉄線等の露出部分は切断し、その他突起物などの不要物はサンダー等で除去する。
- (3) 下地の不陸・巣穴等は下記材料等を用いて調整し、適正な水こう配をとる。
ネオモル M-5 —— 平床部下地調整材 (2~5mm厚, S L 性)
B R-D コテ塗用 —— 立ち上がり部下地調整材 (1~3mm厚)
Qモルタル —— 欠損部充てん用 (3~25mm)
- (4) 平床部の入隅は、ウレタン系又は変成シリコン系のシーリング材を打っておく。
- (5) 0.5mm以下のクラックはB R-D コテ塗用等で充てんしておく。
- (6) 0.5mm以上のクラックはUカット後ウレタン系又は変成シリコン系のシーリング材を充てんしておく。

5. 2 プライマー塗布

- (1) 下地がモルタル・コンクリート面の場合はNDプライマー Eを用いて塗布する。
- (2) 下地がウレタン防水・シート防水・アスファルト防水・金属・塩ビ等の場合は、溶剤系のNDプライマー Sを塗布し、2時間以上は放置し溶剤を蒸発させる。
- (3) プライマーの溶剤で旧防水層に膨れが生じた場合は、その部分を除去し再度プライマーを塗布する。
- (4) プライマーは塗り残しのないように均一に塗布し、下地の吸い込みが著しい場合は2回塗りを行う。

5. 3 平床部の脱気シート張り付け

- (1) 施工範囲にシートの割り付けを行い、必要に応じて墨打ちする。
- (2) ND水性接着材をウールローラーで塗布し(約0.2kg/m²)、追っかけて、ND脱気シートを張り付ける。
張り付ける時は、シートの中央部から両端に向けて十分に転圧する。
- (3) ND脱気シートはすき間のないように付き合わせて張り付ける。
- (4) ND脱気シートの張り付けは作業当日、目つぶし工程が終わる範囲内にする。
注) ・ パラペット・面台等の立ち上がりの入隅部、ドレンまわり、パイプまわり等は1～4cm程控えてシートを張り付ける。(施工おさまり図参照)
・ ND脱気シートは平滑な面が表(毛羽立った面が下地側)にくるように張り付ける。
逆にすると脱気効果がほとんど期待できない。

5. 4 脱気シート付き合わせ部の処理

- (1) NDジョイントテープ(50mm幅)をND脱気シートの付き合わせ線を中心に均等に張り付ける。

5. 5 ND脱気筒の設置

- (1) ND脱気筒は50m²に1ヶ所程度設置する。設置位置は原則として水上とし、歩行に支障のない箇所に設置する。
- (2) 取付け位置のND脱気シートを10～15cmφ程カッターで切り取る。
- (3) ドリルで下地に穴をあけ、クロープラグを打ち込みND脱気筒をのせステンレスビスで固定する。またはコンクリートくぎでND脱気筒を下地に固定する。
- (4) ND脱気筒の周囲及びビス頭またはくぎ頭をシーリング材で処理する。

5. 6 NDコートによる目つぶし

- (1) NDコートを角ごて等を用いて均一に塗布し、ND脱気シートの穴を埋める。
(NDコート ; 約20m²/セット)
- (2) 作業当日中にND脱気シートの張り付け、目つぶしが完了する範囲に作業を組み立てる。

5. 7 NDメッシュ・補強塗り

- (1) ND脱気筒まわり、ドレンまわり等をNDメッシュ等を用いてNDコートの補強塗りを行う。
- (2) 必要に応じてNDコートにたれ止めのためND添加剤を混入する。

5. 8 防水層施工

- (1) 立ち上がり部 (ND-5工法)
 - ① ND-5工法立ち上がり部の施工に準じてNDコートにND添加剤を混入しNDメッシュ+下塗り、上塗りを行う。
注) NDメッシュは平床部のND脱気シートに10cm程度重ねる。
- (2) 平床部
 - ① ND-2工法に準じてNDコートの下塗り、上塗りを行う。
 - ② NDコートの塗布量は下塗り1.4kg/m²、上塗り0.7kg/m²とする。(約8m²/セット)

5. 9 仕上塗り

- (1) NDトップ#2000をハンドミキサーで良くかくはんし、清水3～6リットル以内で粘度調整する。
- (2) ウールローラー(中毛・長毛)、水性ばけ等を用いて2回塗布する。

5. 10 シーリング処理

- (1) ND脱気筒立ち上がり部、パイプ立ち上がり部等の端末にシーリング処理をする。
注) ND脱気筒、ドレン、パイプ等にNDコート塗布の際のプライマーとしては、NDプライマー Sを使用する。なお、必要に応じて油分の除去、ペーパー掛け等を行う。

6. 標準工程表

6. 1 平床部

工 程	材 料	調 合 (kg)	塗布量 (kg/m ²)	施工器具	間隔時間 (20℃)	備 考
プライマー	NDプライマー E	無希釈	約0.2	ウールローラー等 (中毛)	1以上	約80m ² /缶
脱気シート 張り付け	ND水性接着材	無希釈	約0.2	ウールローラー等 (中毛)	(追加)	約85m ² /缶
	ND脱気シート	—	—	—		約50m ² /巻
脱気シート 付き合わせ 部処理	ND ジョイントテープ	—	—	—	(追加)	約100m ² /巻
脱気筒設置	ND脱気筒, プラグ・ビス・ シーリング材等	—	—	—	(追加)	約50m ² /1ヶ
脱気シート 目つぶし	NDコート 主 材	9	約0.85	角ごて等	4以上	約20m ² /セット
	NDコート 混和液	8				
NDメッシュ ・補強塗り	NDコート 主 材	9	(約1.4)	角ごて 水性ばけ等	3以上	ND脱気シートジョイント部・端部, ND脱気筒まわり, ドレンまわり, パイプまわり等の補強
	NDコート 混和液	8				
	NDメッシュ 10等	—	—			
下 塗 り	NDコート 主 材	9	約1.4	角ごて 左官ばけ等	4以上	約12m ² /セット
	NDコート 混和液	8				
	清 水	0～0.5				
上 塗 り	NDコート 主 材	9	約0.7	角ごて 左官ばけ等	8以上	約24m ² /セット
	NDコート 混和液	8				
	清 水	0～0.5				
仕上塗り (2回塗り)	NDトップ#2000	15	0.25	ウールローラー (中毛・長毛) 水性ばけ等	工程内 5以上	35～64m ² /缶
	清 水	0.75～1.5	0.46			

注) NDメッシュ・補強塗りの際、必要に応じてたれ止めのため、NDコート1セット当たりND添加剤(200g)を混入する。

6.2 立ち上り部

ND-5工法

工 程	材 料	調 合 (kg)	塗布量 (kg/m ²)	施工器具	間隔時間 (20℃)	備 考
プライマー	NDプライマー E	無希釈	約0.2	ウールローラー等 (牦)	1以上	約80m ² /缶
補強塗り	NDコート 主 材	9	(約1.4)	水性ばけ等	3以上	出隅・入隅等の補強
	NDコート 混和液	8				
	ND添加剤	0.2				
	NDメッシュ	—				
NDメッシュ + 下塗り	NDコート 主 材	9	約2.0	角ごて 水性ばけ等	8以上	約8.5m ² /セット
	NDコート 混和液	8				
	ND添加剤	0.2				
	NDメッシュ	—				
上塗り	NDコート 主 材	9	約1.4	角ごて 水性ばけ等	8以上	約12m ² /セット
	NDコート 混和液	8				
	ND添加剤	0.2				
仕上塗り (2回塗り)	NDトップ#2000	15	0.25	ウールローラー (牦, 牦) 水性ばけ等	工程内 5以上	35~64m ² /缶
	清 水	0.7~1.5	~ 0.48			

注) 上塗りのNDコートは、たれ止めのためND添加剤を混入するか又は2回以上塗布する。

7. 注意事項

- (1) NDコートは、可使時間が約40分(20℃の場合)なので、それまでに使い切る。
- (2) 施工場所の気温が5℃以下、湿度が85%以上又は結露の発生が考えられる場合は塗膜の乾燥過程で種々の欠陥が生ずることがあるので施工を避ける。
- (3) 外部の施工で降雨、降雪の場合又はそのおそれがある場合及び強風時は施工を避ける。
- (4) 材料は、直射日光下及び0℃以下での保管は避ける。
- (5) NDコート 主材は、湿気や水掛かりに注意して保管する。
- (6) NDプライマー Sを取り扱う場合は、特に火気に注意し、消防法及び労働安全衛生法等を厳守する。
- (7) 有効期間は、標準状態で製造日よりNDコート 主材は3ヶ月以内、その他は6ヶ月以内とする。